トラストネットワークはボランティアが皆様の声や情報をお届けするミニコミ紙です。
本紙カラー版を https://www.setagayatm.or.jp/trust/pub/pdf/tn86.pdf にてご覧下さい。

…ボランティアがつくるニュースレター…

トラストネットワーク

発　行…トラスト通信ボランティア
問合せ…(一財)世田谷トラストまちづくり
〒156-0043 世田谷区松原　6－3－5
Tel: 03-6379-1620　Fax: 03-6379-4233
https://www.setagayatm.or.jp/

No. 86　　2019年12月

世田谷のトラスト運動30周年記念
世田谷を楽しむ
実践者と語るシンポジウム

10月５日(土)、成城ホールで13時から30周年記念のシンポジウムが行われました。まだ残暑の厳しい日でしたが、開会までに会場はほぼ満員になる盛況でした。

会は定時に始まり、最初に（一財）世田谷トラストまちづくり理事長から「英国のトラスト運動を参考に、自治体が主体の都市型のトラスト協会を作り、“まちづくり” を支えて30年になりました。今後も皆さんとともにこの活動を盛り上げていきましょう」と開会の挨拶がありました。

次いで、保坂区長の挨拶がありました。区のみどりの危機に対して「一坪の緑」を広げていく活動を推進しています。そして世田谷区の環境保全の一環として「玉川野毛町公園」と「上用賀公園」の２カ所の公園の拡張用地を取得しました、との報告がありました。

そして、1989年に発足した「（財）せたがやトラスト協会」の歩みについて財団の髙橋係長から説明がありました。「ナショナルトラスト運動」と「シビックトラスト運動」を参考にしたものだが、「現在、23団体で６00名余のボランティアが活動しており、これからも『みんな（区民、市民）が主役』の活動を続けていきましょう」とのことでした。

シンポジウム会場（成城ホール）

次に、30年にわたるボランティア活動に対する感謝状が、理事長からボランティア代表の今田裕実子さんに贈られました。

86号の目次

実践者と語る シンポジウム・・・・・・1
菊の展示会イベントＤＡＹ ・・・・・4
ハンギングバスケットづくり ・・・・5
街中アート イチョウの樹・・・・・・6
かわらばん・・・・・・・・・・・・・8

【トークセッション】

●地元（ローカル）・世田谷を楽しむ実践者と語るシンポジウム

「語ろう、わたし流“楽しい”から始まるセタガヤ暮らし」

ファシリテーター：甲斐徹郎（まちづくりプロデューサー、都留文科大学講師）

パネリスト：

牧野ふみよ（グリーンアドバイザー）

近藤ヒデノリ(地域共生のいえオーナー)

入江彰昭（東京農業大学准教授）

今田裕実子（環境保全ボランティア）

湧口善之（建築・土木・都市林業家）

最初に甲斐さんから「豊かなくらしが生まれる基本原理」についての解説と話題の提起がありました。まとめると、「与えられる側」から「まち」へ参加する「主体」になろう、それは自分の思いをきっかけに「自分のために活動していこう」という内容でした。

そして、甲斐さんから次のような３つの問いかけがあり、それに対してパネラーからの発言がありました。

（１）そもそもの始まりは？

甲斐：世田谷に森をつくって暮らそうと、12の家族が力を合わせて森をつくり、コーポラティブハウス（共同住宅）をつくりました。

牧野：「花が好き」から始まり「花が好きな“人”」が好きなことに気付いて、人と人を結びつける裏方的な部分を楽しみながら活動をしています。

近藤：自宅兼地域共生のいえ「KYODO HOUSE」を運営しながら、都会の持続可能で豊かな暮らし方を実験・シェアしています。

入江：レイチェル・カーソンの著書『沈黙の春』を読んで生態系のことを知り、環境の大切さを認識したことです。

今田：（国分寺崖線の）湧き水の調査をしたときの自分の体験がもとになっています。

湧口：街の緑が減っていくのに、「緑を増やそう」「木を伐るな」という思いだけでは樹木を維持していくことはできないことを痛感して、何とかしないといけないと思いました。

（２）どうしてのめりこんでいったのか？

甲斐：活動をしているうちに、自分が主体として「まち」へ参加するというように意識が変化していきました。

牧野：専門家がいるので、自分がメインになるのではなく、専門家に話をつないで問題の解決を図るような方法に興味を持つようになりました。

近藤：始まりは「個」でしたが、大きな「自然」というものに対して興味がわき、活動にのめりこんでいきました。

入江：地域には他にはない「特色やもの」があります。それらを対象にした「地元学」といったものに興味をもち、地元の皆さんと「緑の風景づくり」などの活動をしています。
今田：誰かに会うと、新しい知識、新しい考え方が得られます。ボランティア活動を通して自然と触れ合い、さらに周囲の方々から声をかけていただくのが嬉しくて、ずっと活動を継続しています。
湧口：木を１本伐るにしても、人によって考え方、やり方が違います。他の人と一緒に活動することに興味がわいてきて、活動の範囲が広がり深くなっていきました。

（３）なぜ「どうにも止まらないのか」？
牧野：無理をしない、休憩をし、お茶を飲みながら自分に合ったペースで活動していくことが原動力になっていると思います。
近藤：やらされるのではなく、「やりたいからやる」ことが大事だと思います。
入江：ゆるやかに物事を進め、ゆるやかにつながり、そして楽しむことですね。
今田：身近なところにすばらしいフィールド（活動の場）があるので、ボランティア活動に対する興味はつきません。
湧口：プロとして関わるというスタンスではなく、いろいろな人たちと協力して関わっていくことがポイントではないでしょうか。
甲斐：私、とても楽しいことをやっているので一緒にやってみませんか、という姿勢、誘い方が重要なのではないでしょうか。仲間が増え、活動も長続きします。

このような内容のやり取りがあって１時間30分ほどでトークセッションは終りました。
休憩をはさんで、同会場では12卓のテーブルに分かれ、パネリストを囲んで自由におしゃべりをする「カタリバ・カフェ」が行われました。
また、会場周辺の市民緑地や旧山田邸などを巡り、地元の魅力を体感しながら語り合う「まちあるきカタリバ」（定員20名）も行われました。
左下写真はその様子を示しています。
「カタリバ・カフェ」では主に次の様なテーマが話題になったようです。

- 住んでいるまちで何かしたい。
- 地元の友達を増やしたい。
- 身近な自然を通じた楽しみ
- 暮らしにみどりを取り入れた楽しみ
- 地域のシンボルを通じた楽しみ

← カタリバ・カフェ

フラワーランド
菊の展示会イベントDAY

11月3日、あまり良い天気ではありませんでしたが、朝から10時オープンに合わせて園内を「友の会」の会員大勢が準備のために動いていました。

フラワーランド前庭

会場でみどり募金に協力した方々に苗が頒布されていました。園内の草花を使った秋のミニブーケ作り、たねダンゴ作り、園内散策ツアー、バラのガーデンツアーなどいろいろな楽しいイベントが用意されていました。

公園入口には見事な三本仕立(盆栽仕立)、ダルマ作り、福助作りなどの菊鉢が並べられています。懸崖はまだ少し先に咲きそろいそうでした。後で確かめたら３週間後には咲きそろっていました。

たねダンゴ作りに参加してみました。丁寧に教えてもらいながら作り、指定された場所に植えてみました。

ヒメキンギョ草(リナリア)、ネモフィラ、ハナビシソウ、ヤグルマソウ、アグロステンマの種が使われていたようです。

たねダンゴ

たねダンゴの植付け

自宅のベランダに植えた分は一週間もたたぬ間に芽が出てきたので、どんな風に咲くのか楽しみです。園内で育てたハーブで淹れたオリジナルブレンドティーの試飲や手作りのパウンドケーキ、クッキーも売られていました。

自宅ベランダでの様子

カリンの実

菊の育成講習会も行われ、興味を持った人々が熱心に聞いていました。園内に何本もあるカリンの樹に実がたわわについていたり、コスモスが咲いていたり、カモが水車のある池で餌を探しているのも見ました。初めて見る花との出会いが沢山あって私にはとても楽しい有意義な一日でした。他の会場でのイベントと重なった為、来園者数は例年よりも少なかったようですが、毎年楽しみに来られている方々もいました。

フラワーランド園芸講習会

春まで楽しめる

ハンギングバスケットづくり

小春日和の11月18日(月)フラワーランドで**「春まで楽しめるハンギングバスケットづくり」**の講座がありました。

前半は講習室で、講師の柿戸さんが花材や資材の説明と植え込みのデモンストレーション。後半は外に出て、用意された花材を使って各自ハンギングバスケットを作る作業でした。

ハンギングバスケットは初めてという受講者が多かったものの、多数の応募者のなかから抽選で選ばれた15名の受講生はグリーンサムぞろい。約１時間でそれぞれ素敵な作品を完成させました。花材はどれも寒さに強い品種。水やり、花がら摘みをしながら、春まで玄関先や壁面を華やかに飾って下さることでしょう。

指導: フラワーランド友の会
　　ハンギングバスケットグループ
花材: ①ガーデンシクラメン
　　②ビオラ
　　③宿根ネメシア
　　④スイートアリッサム
　　⑤シロタエギク
　　⑥アイビー
　　⑦カルーナ　　以上各２苗
器材：スリットバスケット（LT-25）
資材：培養土、ミズゴケ

↑ 講師の柿戸さんとその作品

「１週間ほどで花材は落ち着き、きれいなハンギングバスケットになりますよ」

←「花材の苗は色のバランスを考えながら丸い形に植え込みましょう。はしで土をつっ突きながら培養土を加えて下さい。」などなど、きめ細かい指導があるので、安心。

←フラワーランドはハナミズキなどの紅葉が始まる一方、子福桜という名前の10月サクラも可憐な花をつけていました。

← 当日はケーブルテレビのJcom社が取材に訪れていました。講座の様子は後日放送されたそうです。
左写真はそのカットの一部と思われます。

世田谷の街中アート　Ⅴ
イチョウの樹

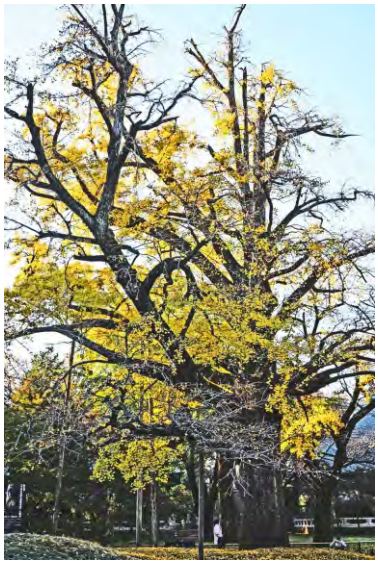
秋の黄葉により、その美しさが特長であるイチョウを紹介します。単独の樹としても美しい姿が見られる区内の名木を「世田谷名木百選(平成29年3月)」から選びました。

イチョウ（漢字では銀杏、公孫樹）は中国原産の樹で一科一属一種(イチョウ科イチョウ属イチョウ種)の植物、古代植物の生き残りです。

イチョウは樹勢がきわめて旺盛な植物で、苗から7～8年もすると見上げるような大きな木に育ちます。そのため寺社の境内か学校の敷地内のような広い面積が必要となります。また生育が旺盛であるため埋もれ芽がよく出て、剪定し過ぎてもすぐに回復するので街路樹に適しています。区内のイチョウの名木はほとんどがそのような場所に見られます。

１　浄真寺　　奥沢７-41

九品仏の名で親しまれていますが、



正式には「九品山唯在念仏院浄真寺」と称し、浄土宗に属します。江戸時代の高僧「珂碩上人」が四代将軍徳川家綱の治世、延宝６年(1678年)に奥沢城跡であったこの地を下賜され、当寺を創建されました。

名物のイチョウの木は東京都から「都天然記念物」に指定され、樹齢は約400年といわれています。

２　森巖寺　　代沢３-27

八幡山浄土院森巖寺と称し、浄土宗の寺院です。本尊は阿弥陀如来で、さらに徳川家康の次男で数奇な生涯を送った結城秀康の位牌所として、慶長13年(1608年)に建立されました。

当寺院は江戸時代から針供養と灸で有名です。針供養とは道具を大切に扱った先人達の教えを伝えるもので、世田谷区の無形文化財に指定されています。今年は12月８日に行われました。(従来は２月８日でした。)

古針や折針を豆腐に刺して供養し、それらの針は豆腐から抜き取られ石棺に納められます。墓碑としての針塚が境内に建てられています。

森巌寺界隈は「粟島の灸の森巌寺」として、1984年「せたがや百景」に選定されています。

境内のイチョウは開山当時からのものと言われ、樹齢は400年あるいは600年以上と推定されています。

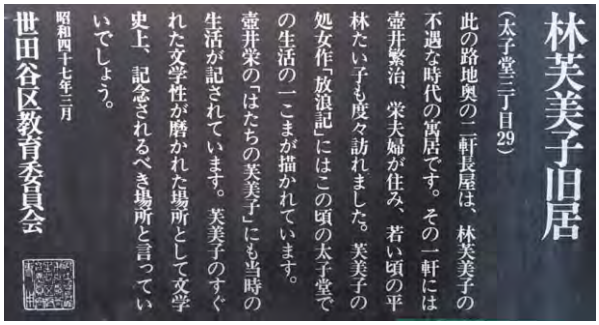
３　円泉寺　　太子堂３-30

聖王山法明院円泉寺と称し、宗派は真言宗豊山派に属します。創建は南北朝時代と推測されています。その後、文禄４年(1595年)僧都賢恵により中興がなされました。寺院内に聖徳太子を祀る堂(太子堂)が建てられ、付近の地名は、この太子堂に因んで名づけられています。本堂、太子堂とも1960年代に改修が行われています。

境内の周囲には古木のケヤキが数メートル間隔で植えられていますが、近隣を配慮してか、いずれの樹も枝が短く剪定され、境内のイチョウだけが大きな姿を保っています。ケヤキ、イチョウとも樹齢は開山時期から数百年と推定されます。

思わぬ見つけものでしょうか、作家林芙美子の旧居跡を偶然見つけました。円泉寺に隣接した路地の角に区教育委員会の立札で説明が示されています。（右側写真参照）

説明板には路地奥の二軒長屋とあるが、現在はすでに建替え済みか。



４　成城学園前の並木　成城６－１

成城学園正門前から西に延びる銀杏並木は、「せたがや百景」に選ばれています。

この並木と駅から北に延びる桜並木の苗は、学園の生徒が参加して、昭和初期に植樹されたそうです。成城学園が今の地に移ったのは大正14年（1925年)。昭和・平成の時代を通して木々は町とともに成長し、住む人・訪れる人から季節を彩る町の景観として愛されてきました。

落葉の頃には、地域の人や学園の関係者などが恒例行事として“落ち葉掃き”を行っているそうです。

台風19号 余波

10月12日午後10時頃、多摩川が二子玉川駅近くで氾濫したというニュースを見てアッ！そういえば玉川１丁目あたりは無堤防だったと思い出しました。いや待てよ、あそこは暫定堤防を造ったけれど、それでは無理だったかなと思いながら、ニュースをさらに確認すると、どうも様子が違うようでした。東急二子玉川駅と国道246号線の新二子橋との間に堤防がなく、そこから越水していたのだそうです。

多摩川の堤防築堤は、国土交通省京浜河川事務所の記録によれば大正８年から昭和８年の間に河口から二子橋までの間の工事が完了し、昭和７年からその上流の築堤工事が開始されています。従って80年以上前に堤防は完成していたはずなのですが、一部区間が無堤防のままになっていました。

二子橋近辺の上流と下流の２区間が無堤防として残ってしまった原因は、主にその地域住民の反対運動でした。堤防構築により景観が損なわれることを恐れたためといわれています。

しかし下流の無堤防区間は数年ほど前に反対運動が和解し、堤防築造が進められ５年ほど前に完成しました。この間、幸いにも双方の尽力により長期間暫定的な手段で氾濫は防がれていました。

上流の無堤防区間は主に兵庫島との交通のための通路や河岸の樹林帯があり暫定措置では越水を防げなかったようです。平成30年頃より恒久策が検討され始め、今年に入ってから工事法は二案に絞られ、詳細設計に着手することになったようです。計画全体が前倒しされていれば、今回のような氾濫を免れることが可能だったと残念な思いです。

本紙編集スタッフには現役時代に国土交通省で河川管理業務を経験されたメンバーが在籍中で、今回の取材提案やアドバイスにより記事の作成が出来ました。

参考資料：二子玉川地区水辺地域づくりワーキングニュースレター 第1～５号(2018.3～2019.7)

発行：国土交通省京浜河川事務所　世田谷区

いきものさんぽ

ハキダメギク

キク科

６月～12月に花が咲きます。この名前は「ハキダメギク」といいます。最初に見つかった場所から名づけられました。

彩草会

彩草会からのお知らせ　(一財)世田谷トラストまちづくりのボランティア団体「せたがやトラスト彩草会」はこれまで会員の作品を本紙「いきものさんぽ」というコラムに毎号掲載して来ました。今回これらの作品原画をまとめ、次の要領で展示会を開催いたします。ぜひご覧いただきたくお願いいたします。

場所：トラストまちづくり ビジターセンター
世田谷区成城4丁目29－1

期間：2020年１月10日(金)～２月10日(金)

編集後記　温暖化対策を話し合うCOP25が開催されたが、日本を含む温室効果ガス主要排出国の消極的な対応は自然災害の多発を招くと予想されます。見かけの経済指標向上を求め無駄な投資で財政悪化を招くより、自然の回復力に期待する廉価で地道な活動が切に求められている時と考えます。

86号作成に関わったメンバー

大泉定雄　奥田雅子　片寄正史　北畠明子
須藤礼子　須永澄子　野武一郎　宮下正雄